



経営における倫理性と健全性の追求

令和6年8月16日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

正しい倫理的企業経営は、必ず企業の健全性を与える。これらは可能性という未来へのドアなのである。

良い企業は、受領性や創造性において優れるのである。この企業風土は、倫理的向上において、企業がこれら可能性を行うことなのである。

これらは公正さという基盤が社員の意欲を与え、未来の実現を約束するのである。

また企業における働くことへの美徳は、正しい労働意欲の創造なのである。

これらが時代性や先端性とともにも可能性という現実の創造を実現できるのである。

これら企業の正しい自己基盤は飛躍という現実を与えるのである。それらは時代先端性という企業の挑戦である。

これらは経営者の正しい現実と市場への理解と認識がこれら健全な企業基盤とともに未来という挑戦や可能性を有することなのである。

これらはグローバル化においても、これら企業の現実はその対等性を必ず実現できるのである。

これら企業風土は、全ての負の遺産でなく、正の遺産において未来を約束できるのである。

企業の飛躍がその倫理的自己において存在することは真実なのである。これらは企業の許容性という可能性の拡大であるからである。

これらは明らかに正しい企業風土であり、これら基盤は新しい自己と未来を実現できるのである。これら企業が後顧の憂いを離れることは、企業の健全性という現実が未来を可能とできることなのである。